

汗も涙も流すファンドに



中西雅也さん

31

ドーガン・アドバイザーズ(福岡市)
コンサルティング部長

都市銀行、金融コンサルティング会社、産業再生機構を経て今年3月、中小企業支援や事業再生に取り組む今の勤務先に籍を置いた。九州経済の活性化を目指し、2004年夏にできたコンサルティング会社だ。

東京・下町の支店に勤めた銀行員時代、ビジネスの「理と情」を学んだ。次の職場では、億単位の利益が瞬時に動く世界を知った。産業再生機構では「小さな案件に取り組みたい」と志望した。自らがチームの中軸となり、企業再生を果たしたかったためだ。

宮崎交通(宮崎市)を担当することになり、生まれ育った東京を初めて離れた。念願の「小さな案件」は、地元を大きく揺るがしていた。社員より先に出社し、意見を聞き、深夜まで

共に働いた。

社内の混乱が収まってきた時、宮交の象徴だった本社の売却を主張した。途端に社員の視線は厳しくなった。会社の借入金を圧縮し、社員の意識変革を促す「理と情」の決断だった。結局、主張通り青タイトルの古いビルは解体された。

今の職場で主に手がけているのは、5月に設立した事業継承ファンドの運営だ。後継者難で存続が危ぶまれる企業に出資し、経営改善を行って、社内外の人材に会社を引き継ぐ。

「ファンド」という言葉に、抵抗感を示す経営者も少なくないが、風向きの変化を感じている。「仕事の規模が小さくても、地域にとっては大きな意味を持つ。みんなと一緒に、汗も涙も流すファンドにしたい」

独身。休日返上も多く、「私のプライベートも再生させたい」と笑う。

